

「今こそ未来主義的に開かれた新しい教育の在り方を模索すべきでは？」

平成 28 年 8 月 16 日

●三毛猫さんからの質問

昨今の不安定な国際情勢からみるに我が日本国も平和主義的なお花畑から脱却し常日頃から現状に危機感をもち物事に対処出来る感性を養いたいと思いますが最近の日本の不道德な利己的主義発想とグローバル化が日本の崩壊に導いてしまっていると感じています！かつての日教組の自虐的な教育そのものが間違いであったのではないかと痛感しています！今こそ私達祖先が歩んできた歴史をひもとき未来主義的に開かれた新しい教育の在り方を模索すべきではないでしょうか？西田先生の見解をお願いします！

●西田昌司の答え

日教組が自虐教育の元凶なのだとよく語られますが、GHQによって占領されていた頃の自虐的価値観を占領が終わって以降も長きにわたって日本人にすり込んできた責任は、日教組だけでなく（かつての）文部省にもあります。文部省は国の行政機関として、日教組は労働組合として、自虐的価値観のすり込みをしてきたのであり、両者は反目し合っているかのように見えるかもしれませんが、戦前の価値観を全否定して戦後の価値観を作り上げてきたという点では同じ穴の貉です。

教育勅語には日本人がこれまでに大切にしてきた徳目が書かれていますし、戦前の日本人は教育勅語によって人としての生き方・あり方を自然とわきまえていました。しかし、GHQは教育勅語による教育の廃止を命じたために戦後日本人は教育勅語に触れる機会をなくしてしまい、親孝行をはじめとした日本人の伝統的価値観が失われてしまいました。

私は子供の頃、祖母・両親・兄弟・叔父・叔母の大家族の中で暮らしていました。私が親に口答えをした時には祖母が「昌司、お前は学校で教育勅語を教えてもらっていないのか！」と私を叱りました。私は小学校に入っても教育勅語は教わりませんでしたし、「そんなもん知らんっ！」とやり返していましたが、祖母があまりに「教育勅語、教育勅語」と繰り返すものですから、私は子供の頃から教育勅語なるものの存在をどこかで意識していたように思います。後年、成人になって初めて教育勅語を目にしたのですが、そこにはいつの時代にも通用するごくごく当たり前のことが書かれていてびっくりしました。軍隊式の封建的な内容かと思っていたら、全くそうではなかったのです。そして、教育勅語が出来た背景を調べてみるとこれがまた面白いのです

日本の初の憲法として大日本帝国憲法が発布されましたが、ほぼ同時期に教育勅語も発布されました。憲法は法律でありますし、そこに日本人の価値観を記すのは相応しくありません。よって、そういった価値観を示すために教育勅語が作られました。教育勅語は明治天皇のお言葉ですが、そのような形で日本人の価値観・道徳観を国民に示して教育したのは素晴らしいアイデアでした。しかし今では学校で教えていませんし、職場や家庭といった場においても教育勅語に触れる機会がなくなってしまったのは非常に残念です。

ところで、日教組は文部省以上に戦前の価値を完全否定して、平和教育と称した偏向教育を行ってきたという面も確かにあったのでしょう。私の地元の京都は、日教組が強いというよりも共産党系の組合が強い土地柄ですが、私が小・中学生だった頃は共産党系の組合の先生が左翼思想を生徒に吹き込んでしました。「資本主義は自由で良いように見えるかもしれないが、何十年に一度は大不況がやってきて大量の失業者が出てしまう。貧富の格差も大きいし、皆が幸せな社会とは言えない。一方、共産主義は計画経済を信奉しており、皆が一気に豊かになるようなことはないとしても、貧富の格差が小さく、計画的に経済を運営することができる。どちらが良い社会を実現できるだろうか、皆で一緒に考えよう」と自説を開陳した上で生徒にレポートを書かせた先生もいましたが、このようなとんでもない偏向教育が行われている

たのも事実です。

もちろん、戦後に日教組や文部省が戦前の日本を全否定したといっても、戦前の日本を知っていた人が本音でそのように思っていたわけではないでしょう。しかし、GHQに占領されて言いたいことも言えない時代となれば、表向きはそのように振る舞うしかない状況だったのです。戦後においても、家庭や職場で日本の伝統的精神を伝えんとする人間も沢山いたはずですが、公式の場では御法度となってしまったのです。占領中はそのように振る舞うしかなかったとしても、占領が終わってからもそういった空気の支配から脱することが出来なかったのが、戦後日本の最大の過ちと言えるでしょう。そして、時間の経過とともに日本の伝統的精神を継承しない人間の割合がどんどん増えてしまっていて今日に至っているのです。

結局、日教組だけが悪いのではなく国を挙げての歴史の忘却行為であったわけですし、戦後70年以上も経過した今となっては歴史を取り戻すのは容易ではないかもしれません。しかし、戦後の欺瞞に気付いた人間が声を上げていくより他にありませんし、私もそのような気持ちで自分の子供に教育勅語を教えてきました。そのような地道な活動をしたところですぐに事態が好転するはずありませんが、しかしだからと言って日本人たる我々は最後まで日本を諦めるわけにはいかないのです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>